

東和米川にメガソーラー

市有地など21ヶ所 民間企業が整備

登米市東和町米川に大規模太陽光発電所（メガソーラー）が建設されることになり、建設する日光エナジー開発株式会社（大阪市）と建設予定地を仲介した株式会社ガイアシステム（神戸市）、市の3者において、立地に関する調印式が行われました。



メガソーラー立地調



立地調印を終え握手を交わす、(左から)日光エナジー開発・張社長、布施市長、ガイアシステム・洲上会長

来年3月の完成目標

建設予定地は、東和町米川南上沢地内の市有地と民有地の山林・原野で、面積は約21㌖。日光エナジー開発株式会社（本社・大阪）が建設し、登米市に事業所がある株式会社ガイアシステム（本社・神戸）が全体の調整を担当します。土地は20年間の賃貸借を予定しています。

建設されるメガソーラーには太陽光パネル約1万枚を設置。出力は8000㌔ワ（8メガワ）時で、年間900万㌔ワの発電量を見込んでいます。これは、約2640世

メガソーラー 一般的に、出力1メガワ（1000㌔ワ）時以上の大規模太陽光発電所をいう。
再生可能エネルギーの固定価格買取制度「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」で、2012年7月1日からスタートした。再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）を用いて発電された電気を一定の期間・価格で電気を買い取る。国では、この制度の実施により、再生可能エネルギーによる発電の普及を図る。

帯分の年間電力量に相当し、登米市全世帯の約1割に当たります。

事業費は約28億円。日光エナジー開発では今年9月に着工し、来年3月の完成を目指しています。発電した電力は、7月1日に始まった再生可能エネルギー固定価格買取制度を活用し、来年4月から東北

電力に売電する計画です。日光エナジー開発は、太陽光発電を中心に風力、水力などの再生可能エネルギーインフラの開発・運営やLED製品の研究開発などを行っています。

日光エナジー開発は、太陽光発電を中心に風力、水力などの再生可能エネルギーインフラの開発・運営やLED製品の研究開発などを行っています。

ガイアシステムは、再生可能エネルギーなどの環境デザイン事業などを手掛け、同社会長が代表を務める社会貢献共同体ユニテッド・アースは、昨年の東日本大震災以降、登米町を拠点に震災復興支援活動を展開しています。

発電量は東北最大級

7月17日には市役所において、日光エナジー開発の張社長、敏社長とガイアシステムの洲上智信会長、登米市の布施孝尚市長の3者が立地に関する覚書に署名しました。

調印後に行われた記者会見で日光エナジー開発の張社長は「今回、登米市に整備するのは東北最大級のメガソーラー。震災から復興するには、自然エネルギーが必要だと考えて取り組んできた」と話し、ガイアシステムの洲上会長は「被災地3県の産業復興、雇用創出と併せ、クリーンエネルギーを登米市から全国に広げていきたい」と抱負を述べました。

布施市長は「今回のメガソーラーが整備されることで被災からの復旧復興と地域の安全度を高めていく取り組みがさらに加速することを期待しています」と述べました。



【上】市役所で行われた調印式には多くの報道関係者が詰めかけました
【下】整備する敷地の面積は東京ドーム5個分に相当します

